MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２４．９．１０　発行元
第 603 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

1990年のミステリ

新しい企画として「１９８８年のミステリ」からスタートして、今回はその三回目。平成２年である「１９９０年のミステリ」を取り上げる。前年の１９８９年ほどではないけれども名作・傑作ぞろいの年。

『新宿鮫』の年

１９９０年。私は教員の仕事が満杯状態になり、読書は細切れになってしまった。一年に５０冊も読めなかった。読書中断期間に突入する直前の年になる。

というわけで右の『ベスト２０』の表に出てくる作品の中でその年の内に読了したのは『夜の蝉』『暗闇坂の人喰いの木』『ロートレック荘事件』『黒き舞楽』『毒薬の輪舞』くらい。この年はミステリ史上『新宿鮫』の年と言えるのだが、私が『新宿鮫』を読んだのは２０００年になってから。『霧越邸殺人事件』の本も買ったまま本棚にしまい込まれた形になってしまった。

下に取り上げる二作品を何にしようかと悩んだ。大どころは他の号で取り上げているので、残されているところから…。それで『黒き舞楽』と『レベル７』にした。『炎流れる彼方』や『遥かなり神々の座』『帰りなん、いざ』などは今もって未読のままである。私にとって冒険系ミステリは手を出しにくい存在である。推理要素が少ないせいもある。

1990年「このミス」ベスト20

１．	新宿鮫	大沢在昌
２．	夜の蝉	北村　薫
３．	炎 流れる彼方	船戸与一
４．	遥かなり神々の座	谷　甲州
５．	天使たちの探偵	原　　奈
６．	帰りなん、いざ	志水辰夫
７．	霧越邸殺人事件	綾辻行人
８．	還らざるサハラ	藤田宜永
９．	魔術はささやく	宮部みゆき
１０．	暗闇坂の人喰いの木	島田荘司
１１．	ロートレック荘事件	筒井康隆
１２．	黒き舞楽	泡坂妻夫
１３．	どこまでも殺されて	連城三紀彦
１４．	レベル７	宮部みゆき
１５．	ソー・ザップ	稲見一良
１６．	頼子のために	法月綸太郎
１７．	毒薬の輪舞	泡坂妻夫
１８．	彼女はたぶん魔法を使う	樋口有介
１９．	神宿る手	宇神幸男
２０．	消失！	中西智明

泡坂妻夫『黒き舞楽』

１９９０年ベスト１２作品。私の手元にある本は白水社の「物語の王国」シリーズの初版。現在は新潮文庫に納められているようである。長編にしては短い凝縮された内容。雰囲気は出身雑誌『幻影城』の流れに沿ったような日本情緒が漂う本格ミステリ。

冒頭に出てくるのは八窪神社の小正月の行事・どんと焼き。正月飾り等を焼く催しなのだが、古い行李が持ち込まれたようだ。危うく焼かれるところを止められ、中を開けてみると人形浄瑠璃の人形が二体出てきた。文楽人形は三人がかりで一体の人形を操作するのだが、ここで出てきた人形は一人で動かすことができる形にしたもののようだった。どうやら地元に伝わる目岩人形のようだということになった。ここで関りが出てくるのが地元の一刀彫の工人・銛口繁雄。二十三歳。すでに年上の妻・房子を交通事故の後遺症で失い、二人目の妻・三千代と暮らしているそうだが…。その三千代が心臓の調子がよくなく入院することに…。そして夫かいない時に急死する。と、一刀彫の銛口中心の話に進んでいく。続く不審な死に、旧家に伝わる浄瑠璃人形との因縁が浮かび上がってくる。話の語り手は銛口たちを小学校時代に担任した胡島奏江。彼女と劇団あぷるの主宰者・真枝との関係も微妙に影響してくる。人形と恋愛を絡めたミステリに仕上げている。

宮部みゆき『レベル７』

１９９０年ベスト１４作品。新潮ミステリー倶楽部から出た本。現在は新潮文庫に納められているが、しばらく重版されておらずやや手に入りにくくなっているかもしれない。今手にしてみるとかなりのボリュームを感じる。文庫本で７６０ページ。１９９０年は宮部みゆきにとっての一番初期の時代にあたり、すごい勢いで作品を量産していたことになる。

短いプロローグの後は８月１２日の日曜日「第一日」と表示がある。ある部屋で男が目を覚ます。周りを見るとまったく記憶にない部屋。考えてみると自分の名前も思い出せない。ベッドの隣には知らない女が寝ている。自分に二の腕には「Ｌｅｖｅｌ７・Ｍ－１７５－ａ」の文字。彼女の腕には「Ｌｅｖｅｌ７・Ｆ－１１２－ａ」。彼女も何も思い出せない。部屋を調べてみるとブルーのスーツケースには輪ゴムでとめられた札束がぎっしり。そして引き出しを開けてみると中にはキーと拳銃と血の付いたタオルが入っていた。電話線も切られていて途方にくれる二人…。少し後になって三枝隆男という人物が登場して、二人の素性調査に動き始めてくれる。一方、吉祥寺に住む未亡人・真行寺悦子の元に貝原好子という女が訪ねてきて、娘のみさおが行方不明になっていることを告げる…。ふたつの話が絡み合って四日間という限られた時間が過ぎていく。